

「時代の断層」を乗り越える ～地域からの挑戦～

○「時代の断層」がもたらす激震

今、私たちは歴史の転換点となる大河を渡っている。「時代の断層」と言ってよい。

大量生産・大量消費のライフスタイルをやめ、地球環境というコモンズ（共通の財産）を損なわないように、エコな暮らしを求めるパラダイムシフトが起こっている。そのためにも、エコ産業革命というべき化石燃料から自然エネルギーなどへの技術革新が、地球全体が進むべき必然とされるようになった。経済のグローバル化は世界地図を描き替え、国境は失われ、東アジアが世界の中心に位置するに至っている。また、雇用不安や身近な幸せを志向する人心の変化から、農林水産業やふるさと回帰の萌芽が見られ始め、鳥取県でも昨年度県施策対象者だけでも3百名を大きく超える農林水産業就業が現実となった。中山間地域の疲弊、地域間格差は加速度的に強まる等々、昨日とは違う現実が立ちはだかる。

このような「時代の断層」は、地域に激震を惹き起こした。断層を前にして立ち止まるのではなく、政策のイノベーションを挑戦的に行い住民の期待に応えなければならない。

○「大交流時代」の到来

国境をも取り払う「大交流時代」に向けて、鳥取県は大きく舵を切ることとした。昨年6月、鳥取県境港と韓国江原道東海及びロシア沿海地方ウラジオストクを結ぶ「海の道」―国際定期貨客船が就航した。これは長年の日本海側と対岸を結ぶ悲願の航路であった。また、昨年末には山陰唯一国際定期便が就航する米子空港の滑走路は2500mに延長され、「空の道」も飛躍的に機能を高めた。そして3月には鳥取自動車道の県内区間が全通し、「陸の道」では全国ネットワークと絆が結ばれることとなった。

鳥取県は大陸に差し伸べた掌のような位置にある。北東アジアへの玄関口として生まれ変わる好機をとらえて、対岸との観光交流や貿易を促進するため、韓国・ロシアの地方政府とタイアップした貿易促進や観光のマッチングに乗り出す。具体的には、大量の貨物輸送に対する支援を創設するほか、韓国江原道とともに相互の修学旅行等を支援するなどの振興策を展開する。また、国内高速道路ネットワークとの結合を観光面で活かすために、NHK連続テレビ小説に因み「ゲゲゲの鳥取県」への誘客活動を行う。また、米子空港を「米子鬼太郎空港」と改称するなど、思い切って大交流時代に打って出ていく。

○緑の分権改革とマンガ王国

鳥取は自然の宝庫である。鳥取砂丘や浦富海岸など鳥取県東部から兵庫県、京都府に至る山陰海岸を、世界の大舞台「世界ジオパークネットワーク」に加盟する挑戦が本格化している。「日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし」をテーマとして、観光利用などを促進しながら保存、学習していく県境を越えた一大プロジェクトだ。これに象徴される豊かな自然にふさわしい環境志向の産業振興に一石を投じるため、県西部に電気自動車製造工場を誘致するとともに、一気に急速充電施設を全県的に整備するなど、緑の分権改革を本格化させることとした。

また、ポップカルチャーは地域づくりの弾みとなる。海外でも人気のある水木しげる氏

や青山剛昌氏など名だたる漫画家を輩出している「まんが王国とっとり」として、国内外に向けPRしていくこととした。妖怪ブロンズ像で賑わう「水木しげるロード」をはじめマンガを題材としたまちづくりを促進するとともに、「2012年国際マンガサミット」の開催地として名乗りを挙げることにした。

○「真の地域主権」を鳥取県から発信

県民のボランティア活動参加率が全国一位である気風を生かし、住民の参画と地域の魅力を武器としてまちおこしを行う「鳥取力」を育むため、「鳥取力創造運動推進基金」を設け運用益で県民活動を後押ししていく。民の挑戦からこそ、真の地域発展が導かれる。

先月は、地域主権による分権型社会のモデルについて、関西学院大学神野直彦教授をスーパーバイザーとした鳥取県地域主権研究会により提言した。

時代の断層を超える地域づくりへ……。鳥取県の挑戦が始まった。